

普及活動情勢報告（令和元年8月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

生産者代表がGAPについて学びました！



安心安全のために
GAPをしましょう

8月8日、JA高知県コスモス園芸部総会が開催されました。部会でGAPの認知度に差がある上に、GAPに取り組んでいる生産者のなかにも「GAP＝チェックシートに丸をつけること」という認識がありました。

総会終了後、普及所からGAPの目的や注意点、コスモスでの出荷場版GAP点検によるビフォー・アフターの事例を示しました。

また、GAPとは消費者、生産者、環境の安全を守るための道具であることを説明しました。

今後も普及所ではJA高知県と協力し、生産者にGAPの理解を深めていきます。

農村女性リーダーが高吾地区農政懇談会を開催しました



活発に意見交換

7月25日、高吾農業改良普及所で、懇談会を開催し、女性リーダー11名と、管内4町村の農業関係課・JA6名が出席しました。

普及所が女性リーダーの活動を紹介し、各町村役場・JAからは農業施策の情報提供後、「人材育成、労働力確保、担い手育成（新規就農）」の3つのテーマについて意見交換を行いました。

女性リーダーから、「女性が研修会等に参加できる機会が少ない」「農繁期の人手不足」「新規就農者に対する支援策を知らない」などの意見がありました。女性に認定農業者の共同申請を推進することの必要性を共有し、就農に係る支援体制を確認しました。労働力確保については、JAと意見交換を重ねる予定です。

今後も懇談会を継続したいとの声があり、普及所は、農村女性リーダーの自主活動の取組みとして支援していきます。

黒岩梨出荷組合が省力樹形の仕立てを学びました。



情報交換を行う生産者

7月25日、黒岩梨出荷組合（23名）が高知県果樹試験場で研修を行いました。

普及所は、移動中のバスの車内で産地の課題や聞きたい内容を整理し、研修先での学びがより効果的となるようにしました。

果樹試験場では早期成園化に向けた省力樹形を見学し、生産者から「スピードスプレーヤーが通れる範囲が増えるため、防除が行いやすくなりそう」といった感想が聞かれました。

普及所は今後も、生産者の自主的な学びを支援し、産地の課題解決に取り組んでいきます。

イチゴ部会の園巡りが行われました



暑い中熱心に見学する生産者

8月2日、JA高知県仁淀川地区佐川苺部会の園巡り（現地検討会）と勉強会が行われました。17戸の農家が参加し「ゆめのか」苗の生育状況や施肥などの管理技術について確認しました。

また、担い手確保対策を考えるため、今後の栽培規模などの栽培意向についてアンケートを実施しました。普及所は今後結果をとりまとめ、部会の担い手確保に向けた部会活動を支援していきます。

新規就農者・就農希望者の基礎技術力アップ ～高吾えいのう塾を開催～



各自の土を持ち寄り分析

新規就農者や就農希望者を対象に、農業基本講座「高吾えいのう塾」を開催しています。今年も7月に第1回目がスタートし、農業全般や施肥、病虫害、農業経営についての4講座を計画しています。

第2回目は、8月23日に8名を対象に「施肥と土づくり」について研修を行いました。参加者からは、「持参した土の土壌分析ができてよかった」「土づくりがいかに大切かが理解できた」などの感想が聞かれました。

今後も10月まで各講座を開催し、参加者の知識・技術の習得を支援します。